

令和7年7月14日

東員町議会

議長 南部 豊 様

東員町議会 議員 水谷 喜和

研修報告書

研修期間	<u>令和 7年 7月 2日 (水) ~ 3日 (木)</u>
研修 (視察) 先	福井県おおい町役場 石川県津幡町役場
目的 (テーマ等)	おおい町議会 議会改革、通年議会について 津幡町 能登半島地震における町と議会の災害対応について
参加議員名 (複数の場合)	山田 由紀子 大崎 昭一 広田 久男 伊藤 治雄 片松 雅弘 大谷 勝治 三林 浩 山崎 まゆみ 島田 正彦 南部 豊 水谷 喜和 川瀬 孝代 三宅 耕三
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

7月2日午後

おおい町

原田和美議長 堤満也副議長 細川正博議会運営委員長 尾谷副委員長
田中昌之事務局長 寺井敏江局長補佐

議会基本条例 平成23年制定

議会の活動原則・・・町民信頼される開かれた議会運営をめざし町民参加の推進に努める

議員の活動原則・・・町民の意見等を的確に把握し自らの議会活動について町民に対する説明責任を果たす

タブレット導入（議会 ICT 化） スマートフォンをさせている 平成31年導入

タブレット導入効果・・・ラインワークスの導入によりスケジュール管理が可能になり、議員間での見える化が図られている

オンライン委員会 令和3年6月

コロナ感染による委員の委員会欠席が発生したことから、オンライン出席を検討
感染症対応だけでなく、疾病、出産、育児、介護なども欠席事由に明記

通年議会導入 平成30年から5年かけて令和4年6月に移行

通年の会期中で委員会活動の活性化・充実を図る一方、年間の調査活動をたて事前に理事者に示し調査対応を求める

議員定数の削減

平成29年から議員報酬等検討会の中で報酬と併せて定数についても検討

令和4年12月、議員発議により条例改正 定数14人から一人減の13人に変更

議員報酬改定

報酬の試算は、議員の活動日数に応じて、首長の給与から報酬額を割り出す「原価方式」を取り入れた

委員会の活性化 委員会代表質問を可能に

通年議会導入により委員会活動の活性化 各委員会がテーマを定めて調査を実施

住民参加、議会の見える化

各委員会において、町民との意見交換や聞き取り、座談会などを実施し、町民との意見交換を実施

議会報告会や出前懇談会を開催し、住民からの意見に対しては回答書をHPで公開

誰でも参加できる「オンライン議会報告会」を定期的を実施

更なる議会改革と活性化への取組み

議会 BCP・・・災害時の議会機能維持

7月3日午前

津端町

八十嶋孝司議長 小町実副議長 田中圭総務課長 榊原健吾副主幹
村美和事務局長 山本慎太郎事務局次長

令和6年度能登半島自信における津幡町の対応等について

総務課危機管理対策室

災害対応の所感

- ・各職員が担当業務及び関係法令を理解し、発災時に敏速かつ効率的な業務の遂行が必要
- ・災害はいつどこで発生するか分からないため、有事の際は速やかに登庁し、災害対応を実施できるよう職員に対し意識付けを行う必要がある
- ・部課長が不在でも、的確に指示命令を行える体制構築が必要
- ・各課の収集した情報の集約・共有について効率的な手法を検討する必要
- ・避難所開設初期は多くの労力を必要とするため、効率性を考慮した職員の配置や物資を運搬を実施する必要がある
- ・国のプッシュ型支援等による食料品や飲料水の搬入出が頻回あり、対応に苦慮

災害対応の今後の取組み

- ・地震被害想定見直しを踏まえ、地域防災計画をより一層実効性の高い内容に改定し、「災害に強いまちづくり」を推進
 - 避難所運営の改善
 - 避難所にデジタルボックスの設置
 - 大規模災害を見据えた対応体制の強化
 - や体制の見直し・強化トイレカーの配備、防災井戸の検討
 - 町民への情報発信力強化
 - 避難所機能や場所の更なる周知を図る

能登半島地震における津幡町議会の対応等について

議員の安否確認・被災情報の共有（LINEWORKS）

議長から各議員への安否等の確認、写真などによる被災情報の提供を依頼

各議員から安否、提供情報をまとめ、情報共有するの

各議員からの被災状況の情報は、議会でまとめ町（災害対策本部）へ情報提供を行うとともに災害関連の議案審査に活用

1月1日 午後5時32分～

議長指示により、タブレットにて安否確認を送付・・・全議員が回答

各議員から被災情報が LINEWORKS に送信される

所感

おおい町

町民の負託に応えられる議会として、議会としての機能強化や議会の見える化への取り組みが伝わる。

東員町議会としても、「オンライン議会報告会」、「自治会長会や各種団体等」との意見交換会等をもう少し頻繁に開催して行かねばと改めて感じた。

議会が「住民の声」を如何に聴くか！である。議会改革、制度改革も大事であるが、先ずは、「まちの声・住民の声」を一つひとつ確実に前に進めていくが重要と感じる。

津幡町

「平時からできる減災活動と防災強化の必要性」を改めて学ぶ。

発災時の自治体職員の応急対策実施中は、議員等は、邪魔だけはしない事。

議会は、災害の正確な情報の把握に努め、情報の共有をすることが重要。

事後の後方支援・対策・対応に備えることが重要である。一步下がって広報支援に徹する事、災害に限らずか！